

洋書輸入協会会報

VOL. 2
NO. 9

昭和43年9月

理事会報告

8月26日(月)

総務・協会本部収支計算書の報告。

会報・洋書こぼれ話、次回大正末期は国際書房服部氏に執筆依頼す。

経営研究・弥富氏の賃金問題講演会の報告。

Sole Agent List の原稿につき協力要請。(9月末締切、訂正原稿は事務局宛送附下さい)

次回講演会は税務関係のテーマを考慮中。

雑誌資料・関西支部企画の合同カタログにつき報告。

雑誌欠号・外国郵便物到着状況案内書発送の件。

雑誌交換リスト作成の件。

価格査定・申請書の件につき報告。

洋書交換・8月20日(火)学士会館における、合同セール出品者会議の経過報告。

PRの一つとして会報の特別号発行を要請。

文化厚生・碁盤5組購入の報告。

関西支部だより

関西支部の厚生事業として7月11日より開始した、「夏季海の家(若狭海岸)」は8月20日好評裡に閉幕した、この間利用者は延157名に及んだ。

8月特別例会(8月23日～24日)を京都「ホテル嵐山」にて開催16社(20名)参加。尚、例会後桂川に舟を浮かべ鵜飼や花火を楽しむ。翌日比叡山に登り解散す。

8月27日～9月1日阪急百貨店にて書籍即売会開催。

協同カタログ順調に進行中。

雑誌欠号委員会報告

会報 Vol. 2 No. 6. にてご案内しましたニューヨーク配船状況調査依頼に対し、今度米国郵便局より下記の返信が東京中央郵便局に入りましたのでお知らせ致します。

当時の出港延期は、キング博士の死を契機とする港湾ストライキによる労働力不足が原因の様です。

(海外出版貿易 三原記)

*** COPY ***

Morgan Foreign
Brooklyn Army Term.

UNITED STATES POST OFFICE
NEW YORK, N. Y. 10001

FOR 56690
LR : RLH : 19

June 24, 1968

Postmaster
Tokyo, Japan

Dear Sir :

In reply to your letter May 31, 1968, ref. #1401, concerning the delay in arrival to your ports of some vessels, the following information is submitted.

SS PIONEER MILL : Sailed March 1, 1968. Encountered heavy seas, resulting in delay of vessel's arrival at another port in U. S. Arrived at Yokohama March 29, 1968.

SS PIONEER MART : Sailed March 9, 1968. Was delayed at another port for two days due to heavy rains. Also delayed for two days while picking up cargo reclassified for Japan at Wilmington, N. C. Arrived at Yokohama April 6, 1968.

SS PIONEER MINX : Sailing delayed until April 11, 1968 because of dock strike, wildcat walkout and death of national figure. Arrived at Yokohama May 6, 1968.

SS PIONEER MALL : Sailing delayed until April 17, 1968 for some reasons that caused delay in sailing of SS PIONEER MINX. Arrived at Yokohama May 14, 1968.

SS PIONEER CRUSADER : Sailing delayed until April 21, 1968 because of death of national figure and insufficient labor to discharge vessel and clear the docks of inward cargos resulting from strike at docks. Arrived at Yokohama May 17, 1968.

It is hoped that this information will be helpful in inenabling you to make the appropriate explanation to your patrons for some of the delays that may have occurred.

Sincerely yours,

(Signed)

Postmaster

「第3世代の電子計算機“HITAC・8300”の稼動開始について」

東 販 川 島 毅

経営機械化の推進について、東販は、業界のパイオニアの役割を、一貫して果して来た。

今日では、事務の機械化が、業界でも経営の常識とされてきたが、東販は、既に十数年前にこのことを予測して、昭和29年早くも IBM 社の PCS (パンチカードシステム) を導入、続いて昭和39年 UNIVAC 小型電子計算機に転換、雑誌業務を主体とする流通事務機械化を効率高く開発し続けている。

しかも「マークセンス入力方式」「カナ文字印刷実用化」「雑誌統一コード設定利用」「高能率大量カード処理の機械運営」「機械化送品票による作業指示」等々の新機軸を次々に産み出し、その機械化システムは、業界だけでなく、事務機械化を目指す各界に高く評価され、見学、照会があとを絶たない状況である。

今回、近代的出版流通センターの凡ゆる機能を結集した新社屋の竣工に先だち、その機能の中核となる、最新鋭高性能電子計算機“HITAC・8300”システムを、既に去る

4月15日新電子計算機室に設置し、5月17日稼動式を挙行、池辺社長により始動スイッチが押され実務活動を開始した。

導入した電子計算機は、いわゆる第3世代コンピュータで、内外の定評ある機種を凡ゆる角度から検討した結果、当社業務に最適なものとして採用を決定し、昨年5月日立製作所に発注したものである。

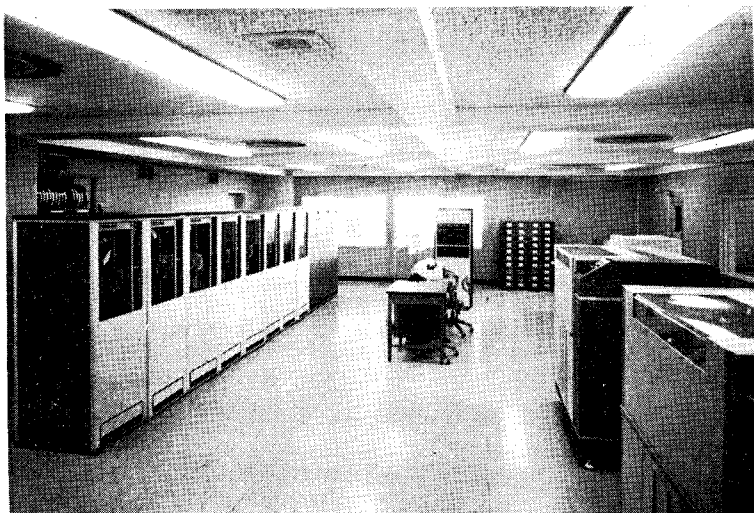
その特色は全IC(集積回路)化、大記憶容量、超高速処理能力、数業務の同時併行処理機能、機種拡張の容易性、高度の採算性等々があげられる。

機種構成と性能の概要は次の通りであるが、業界として、この種機械組織の導入は最初であり、その構成と能力は、発注の公表されたものを含めて比較しても、最大最高のものである。

△製造 日立製作所

△名称 HITAC・8300システム

△機種構成



○中央処理装置 1台

・記憶容量 65,500桁

・移送速度 1桁/0.72マイクロ秒

(百万分の1秒)

○カード読取装置 1台

・読取速度 750枚/1分

・マークリーダー付

○カード穿孔装置 1台

・穿孔速度 100枚/1分

○高速印刷装置 2台

・印刷速度(1台) 1,250行/1分

・カナ・英・数・特殊文字 132桁/1行

○磁気テープ装置 8台

・読み書き速度 3万桁/1秒

・同時使用記録データ 約1億5千万桁

○他に制御卓、磁気テープ制御装置 各1台

運用上の特色は、従来の雑誌業務・回収業務に加えて書籍業務をのせ、一貫集中処理による営業情報システムの完成を期すると共に、日常業務の80%以上の機械化達成を目標とするところにある。

電子頭脳による雑誌、新刊書籍の科学的書店配本に始ま

る一連の販売送返品統計事務・輸送事務・計算回収事務・コンペ発送作業の制御業務・仕入および出版科学資料の作成等につき、雑誌関係を7月始め、書籍新刊関係を同月中に開始している。勿論従来より引続いて給与・厚生・株式・資産関係事務も併せて行い、書籍注文品と在庫管理も前記に引続いて実施する。

運用技術については、新しいタイプのマークカード方式と、3種類以上の業務の同時併行処理(例えば、2台の印刷装置で雑誌と書籍の伝票を作りながら、給与計算を併せて行う)をフルに採用したシステムを開発している。

なお、以上の才1次計画を完成するため、本社業務機械化の見通しに併せて、全支店を結ぶネットワークの確立も急ぎ、全計画をごく短い期間に終了する予定である。その後才2次計画として、出版流通に関する総合的経営情報システム(管理・計画を主とした)を、段階を追って達成し、機械構成もそれにふさわしく大型高性能なものに拡張して行く。

このように未来に向っても経営機械化の先駆開発を精力的にすすめ、その結果である出版流通情報により、更に業界に貢献して行きたいと考えている。

会 員 紹 介

創 業 百 年 を 迎 え て

丸 善 株 式 会 社

丸善は福沢諭吉氏の門人早矢仕有氏によって明治二年横浜に設立された丸屋商社に始まる。同13年本店を現在地の東京日本橋に移り丸善商社と改称、同26年現称の丸善(株)となった。同社は創業宣言ともいふべき「丸屋商社の記」で、貿易の振興と日本文化の向上に貢献するという方針を早くも打出していることは注目に値する。来年1月1日に創業百年を迎えるこの間一貫して創業の精神をモットーに外国文化の吸収、特に書籍及び雑誌の輸入及び普及に力を注ぐかたわら幾多の名著を出版してきた。第二次大戦前において洋書輸入は圧倒的シェアを占め「洋書の丸善」の名を不動のものにした。本店書籍売場はその内容と規模において世界的に屈指の売場であることも特筆に値しよう。なお、同社の新着紹介誌「アナンスメント」は書籍業界にあって群を抜くものであり、理工学書、社会科学書、文学書、医学書の各分野に亘っての充実した内容はさすがである。同社は書籍雑誌部門のほか、文具事務機、洋品等の各部門があり、総合専門店として知られている。

洋書こぼれ話

「第一次世界大戦直後から昭和初頭に至る独逸書の輸入について」

(その一)

国際書房 服 部 正 喬

1914(2月8日)から1918(11月15日)に及ぶ第一次世界大戦は独逸側の敗戦に終わったけれども、独逸は国内に於いて戦争が行はれなかったために、国内に於ける戦争の被害は軽微で、特に学問的価値の高い書物は大量に蓄積されていた。第一次世界大戦直後独逸国民は第一次にヴェルツブルグの大寺院を復興させ、次いでゲーテハウスを完璧に復元させて、独逸の憲法と文化との護持を国の内外に示めしたと聞いているが、第一次世界大戦直後の独逸人の祖国愛や文化愛は極めて強く、その莫大な出版物は世界の至宝として蔵存していた。当時の長期に亘る烈しいインフレに付いては特筆する要はあるまい、ただこのインフレ(馬^{マルク}ク)の暴落は独逸に留学していた多数の海外の学徒にとって至極幸福なことであって、彼等は多少の差はあれ何れも、大量の貴重な文献を購入し、その帰朝に際しては十数箱の書籍を携帯又は托送させることが出来た。そして夫等の文献の中には長い間利用温存され、戦中戦後の洋書輸入路の杜絶して洋書枯渇時に於ける重要な供給源となり、漸次に愛好家の手を離れて、或は研究所、新制大学、図書館に納められ、一には愛書家の経済的支へになり、一には図書館を充実させるのに役立ったものすらある。実際独逸学界は第一次大戦前は勿論戦後も社界的不安と経済的困難のうちにありながら全世界に向って昂然気を吐いていたもので、当時(1928・9年頃迄)の日本では、経済学に於いても、哲学に於いても、文芸に於いても、自然科学や理工学に於いても、医学に於いても、独逸文化は大きい憧れであったので、戦後(第一次)独逸への留学者は甚だ多かった。例へば名古屋高商の宮田教授は私の友人であるが、同教授が哲学者フッサールの門にいたときには、フッサールの指導を

受けていた日本の学徒は7名あったとのことである。こんなに沢山の青年学徒が、研究のかたわらインフレ下の独逸に於いて学術図書を買ひあさっていたとき、日本国内にいる学者愛書家間に低廉な独逸書の入手に強い意欲が燃えだし独逸書輸入熱が澎湃として旺盛になってきたのは当然であった。港市神戸に新しい洋書輸入商社(殊に独逸書……国際書房、ヒルシュフェルド、独亜書院等……)が誕生し、生長した時の時代背景にはか様な独逸書に対する全国的渴望や需要がもりこまれていた。この独逸書の輸入はインフレが治まった後も続いて営まれ、ついで関東大震災は独逸の大出版社 Akademischer Verlag の兄弟社Buchhandlung Gustav Foch GmbH に東京出張員、続いて東京支店を設置させる程独逸書の輸入を倍加させた。

次にその時期に輸入された書籍を述べよう。

(A) 経済関係の書籍

敗戦独逸の長期に亘る混乱激動の経済金融界に於いては、自然に巨萬の富を築いた人々があらはれた、Walther Rathenau, Hugo Stinnes 等が其人で Rathenau は時局対策編として Neue Wirtschaft や Neue Staat や Die Kommende Dinge 等をあらはし、夫等を纏めて Gesammelte Schriften 5. & 6. Auflage 5 Bde. 1925 M30.—を出し、Lujo Brentano は Walther Rathenau und seine Verdiente um Deutschland を書いた。この Rathenau は後に暗殺された。Hugo Stinnes については Ufermann, P. u. -a.: Hugo Stinnes und seine Konzerne 1924 M8.—が刊行され、又 Familie Hugo Stinnes が出ている。何れも我国に輸入されている。しかし何と云っても独逸が当

面した最大の問題は賠償 (Reparation) の問題で、それに関連した文献は私のしらべた処だけでも1921—1925年の間に135点あった。しかも其筆者の中には Brentano (Lujo), Gerloff, Helfferrich (Karl), Liefmann (Robert), Solmssen, Terhalle, Törjes (C), Weber (Adolf) 等の著名な経済学者の名がみえる。何れも焦眉の大国難を打解するために憂国の至情を注いで急拠物したごく薄いパンフレットで、英国で刊行された Keynes, J. M.: The Economic Consequence of the Peace や其続巻 A Revision of the Treaty に比し対蹠的に薄いものと言へよう。

又インフレに関する書物は当然発行された1921—25年間に85点を調べ得た。何れも薄いものばかりだ。

しかし其基本になる貨幣論の文献は素晴らしい名著が続々あらはされた。主要なものを左に掲げるが、これらの多くは現在でも学問的価値極めて高く、あとで掲げる経済学の文献と共に、例へば大学の経済学部や経済学部の大学院の設置のときの、必要重要な文献視されているらしい。新しい経済学の母体的理論文献と云う意味からであろうか。

書名リスト

Bendixen, Frdr.: Geld und Kapital. 3. Aufl. G. Fischer '22

do.: Das Wesen des Geldes. 3. Aufl. Duncker '22

Cassel, G.: Das Geldproblem der Welt. (Uebersetzung)

Diehl, Karl: Ueber Fragen des Geldwesens und die Valuta während und nach dem Kriege. 2. Aufl. G. Fischer

Döhring, H.: Die Geldtheorien seit Knapp. 2. Aufl. '22

Ehrenberg, R.: Geldmächte des 16. Jahrhundert.

Elster, Karl.: Die Seele des Geldes. 2. Aufl. Fischer '23

Eucken, W.: Kritische Betrachtungen z. deutschen Geldproblem. Fischer. '23

Jastrow, I.: Geld und Kredit.

Kerschagl, R.: Geldprobleme von heute. 4. Aufl, Duncker '23

Knapp, G. F.: Die staatliche Theorie des Geldes. 4. Aufl. Duncker.

Simmel, G.: Philosophie des Geldes. '22

Soda, Kiichiro: Geld und Wert. Mohr '24

Spengler, O.: Die Wirtschaft. Das Geld. Die Machine Wagemann, E.: Allgemeine Geldlehre.

我国の経済学界でも貨幣論が活潑に学界誌を賑はしていたが、後年、前記クナップ教授の許にて指導を受けていた宮田教授が名著「平貨切下げ理論」をあらわした。

会 員 紹 介

ドイツ書専門店として

メクレンブルグ商会

リブレリ・メクレンブルグという舌を噛みそうな名前の会社が大手町の一隅に居を構えたのは1950年のことである。設立発起人には共に故人となった名取洋之助、長井並歴山等の名が見える。当初は美術複製画の輸入を主としていたが、現在の日比谷に移り、名称もメクレンブルグ商会と改めてから、ドイツ書専門店という性格を強く打出し、趣味の本や児童書等も含めて変化のある在庫品を揃えるようになった。社長メクレンブルグ夫人の交友関係から在日ドイツ人の顧客も多く、クリスマス前の一時期にはプレゼント調達のドイツ人が集まってドイツクラブの観を呈することもある。一方、経済統計資料の出版社であるホッペンシュテット社の総代理店として「ドイツ株式会社年鑑」「会社系列図表」等の普及に努め、西欧経済圏の核の情報提供に、小数ながら経験豊富な社員が取組んでいる。

軽井沢だより

洋 販 渡 辺 正 広

私達は年一回佐藤栄作氏に会う。私達と書かざるを得ないのは、実は私が主役ではなく母が中心人物で、私は単なる脇役だからである。この会見は十数年続いている。私の母は明治十七年生れて今年八十五になる。たまたま佐藤夫人の母堂と学校が同クラスで仲が良かったらしい（佐藤総理はご存じの通り養子である）。毎年軽井沢で佐藤家を訪問するのが楽しみで必ず電話をする。しかも思いつく「これから伺います」というのだ。彼女にとっては佐藤さんが、幹事長だろうが、大臣だろうが、総理だろうが問題でない、忙しかろうが、ゆっくり静養したかろうがそんな事は一切意に介さない。うっかり秘書が、「本日は静養の為、面会は一切ご遠慮申し上げます」などと言おうものなら大変である。「では寛子さんを」と夫人を呼び出す。総理大臣夫人も First Lady も「ひろ子ちゃん」と言われるともう全然問題にならない。「どうぞどうぞお越し下さいませ。お待ちしております。主人もお目に掛りがっております」となってしまう。そこでさっそうと出かけることとなる。私は運転手兼ボディガードでお供を仰せつけられる。「正憲はどうしたの、ノリちゃんもいらしゃい」と言われると、おばあちゃんの目を盗んでデイトをしようとしていた長男の正憲もすっかりあきらめてついてくる。

「お兄さんも総理大臣、あなたも総理、お母様が生きておられたらどんなに喜びでしょうね」から始まる。「ハア、有難うございます」と総理が頭を下げる。「何時もお丈夫なようで結構でございます。まだお腰も曲っていないようで」と佐藤さんが一寸お世辞をいうと母は、「いいえ、もう駄目なのよ。今年が最後だと思うとどうしてもあなたにお目にかかりたいの」と切札を出す。必然的に「どういたしまして、まだまだお元気なようで。私も又来年を楽しみにしております」と言わざるを得ない。そこでおふくろは来年度のレザブチケットを手に入れたことになる。来年も大丈夫ときまると、子供の時の話、松岡さんの話（故松岡洋右氏、佐藤さんの叔父にあたる）、鉄道省の若い頃の話と色々出る。さんざんご馳走になり、引きあげる時に「では来年又」と必ず Confirm する。私が常に社員に Confirm する事と follow up をやかましく言うのは、このおふくろの精神を受けついているかも知れない。おみやげには特製のハムをもらったり、スイス製の壁掛けをせしめたりする。こちらからは庭の川で鱒を少ししゃくって持って行けたから、彼女はなかなかいいビジネスをしているわけだ。

私も色々興味のある話が聞ける。宮沢君が高く評価され

ているのを知ったり（大体宮沢君は池田派である）、平さんを労相にしたり（小川氏は有名な小川平吉の息子で、三菱で私の隣席にいたボン友）、石原慎太郎の話、勤皇の志士三島由紀夫の話等々、仲々面白い。正憲も浪人中、佐藤さんの戸隠山での猛勉の話に大いに発奮したようだ。今年は安田講堂占拠の話、彼のゼミでは13対2でスト反対を決議した話等々をしていた。今年の東大のテニス部は割合に成績がよく三部で優勝したこと、彼自身関東学生の資格をとったこと等しゃべっていた（因みに彼は庭球部の副将である）。

私に対しては、「渡辺さん、憲法の次は何ですか？」とからかわれた。そこで「G.N.P.の問題です」と答えた。私の考え方を一席ぶったので、ご参考までに書いてみよう。

先日経済企画庁は、日本の国民総生産は米国について世界才二位であるが、国民一人当りの所得は世界で才二十位ぐらいであると発表した。この発表に対して私は疑問を持つのである。なんとならば、一般の人が「日本は総生産では世界の才二位であるが一人一人の所得は少く、生活水準は世界の二十位ぐらいである」というふうに誤解する恐れがあるからである（勿論輸入協会の方々にはインテリだからそう解釈される方はないであろうが、世間一般は案外経済知識にうといのである）。国民一人当りのG.N.P.が日本が非常に少なくなってしまうのは種々の理由があるが、主なものは次の二点である。

- (1) 日本は人口が非常に多いこと（西独は日本の半分強）。

いくら総生産高が多くても、人口で割ってしまうと少くなる。所が中近東の小さな国で突如石油がふぎだしたとする。その国の王様が、石油の権利を何億ドルかで石油会社に売るとする。その王様の収入は大変なものとなる。たとえその国の人がはだしてボロボロの着物を着ていても、もし人口が少ければその国民の一人当りの所得は多くなり、日本より上になる可能性は大いにある。だから国民一人当りの所得の発表なんて意味がない。数字のお遊びにしか過ぎない。

- (2) 対米為替が¥ 360 に米だ固定されていること。

この前も私は1ドルは¥ 360 ではないと書いたが、再びここで取上げたい。その為いくら総生産が多くてもこれも360分の1にされてしまう。対米為替は、昭和24年に公定レートが決められてから現在まで20年も経っているのに変えられていない。昭和24年に比べて現

在の日本の経済状態は飛躍的に伸びている。昭和24年は日本は占領下であり、食べるものにもこと欠いていた時代である。そんな時代である。そんな時決めたレートを現在まだ据置いているのだ。こんな馬鹿な国辱的なことがあるのか。私見によれば¥250~¥200が適当であると思う。そうすれば国民一人当りの所得は世界の7,8位になるであろう。

勿論この他に資本の蓄積の無さ、所得分布の問題、税制の相異時もある。そこで私は単なる国民一人当りの所得を発表するのは意味がないというのだ。統計というものは目的ではなく手段である。マッセンバオバトウングの必要はここにある。政府はよろしくすべてを引いた国民一人当りの生活水準の順位を調査発表すべきである。勿論生活水準というのは難しいであろう。だからこそ政府以外では調

べようがないのだ。ある人が月給20万円をとっていたとする。もし国によって税制が異ればその人の実際所得は異なる。又物価が違えば之も異なる。それ等は政府以外では調べられない。それを経済企画庁はやるべきだ。

私は9月4日から11月6日までヨーロッパ、北米、メキシコを廻ってくる。そして国民一人当りの所得ではなく、一般国民の生活水準をこの目で見てくる。私は日本人の生活水準は世界で3,4位であると確信している。就学率世界一の日本は、ひよっとしたら生活水準が2位かもしれない。実際、洋書でも非常に高度のものでないと売れないではないか。外国語のものなら何でも売れる時代は十数年前のことである。(尤も洋販さんは例外である。申訳ありません。私達のお得意様はミーチャンとハーチャンなので――)

海外ニュース

イギリスの出版統計

イギリスの1968年上半期(1月~6月)の出版統計が発表された。政府刊行物を除き、この期の総出版点数は15,087点、発行社数は1,400社、価格総額30,738ポンド18シリング9ペンス、平均単価40シリング9ペンスである。(前期、1967年7月~12月では、総点数14,839点、発行社数1,346社、平均単価39シリング2½ペンスであった)

1968年1月~6月の新刊書は、総点数11,152点、総額23,500ポンド19シリング8ペンス、平均単価42シリング2ペンスである。(1967年7月~12月では、11,342点、総額20,976ポンド7シリング5ペンス、平均単価37シリングであった。)

再刊書は3,935点、総額7,237ポンド19シリング1ペンスで、平均単価36シリング9ペンスである。(1967年7月~12月では平均単価46シリング5ペンスであった。)

なお、前年同期(1967年1月~6月)の数字は、13,662点、1,235社、平均単価34シリング8ペンスで、このうち新刊書10,437点、平均単価33シリング2½ペンス、再刊書3,225点、平均単価39シリング4ペンスである。

☆☆☆

1968年1月~9月の新刊小説書のクロス装のもの(単価6シリング以上)の出版点数は1,012点、平均単価20シリング6½ペンスである。1967年下半期では923点、平均単価33シリング2½ペンスであった。同上半期では1,102点19シリング3ペンスであった。

(The Bookseller 8月10日号より)

トルコの書籍輸入額

トルコの貿易に関する官庁統計によれば、1965年度の、出版物(版画等を含む)の輸入は、総額18,682百万トルコポンド(1Ltq.=ca. ¥40)に上った。これに対し輸出額は0.732百万トルコポンドであった。

この輸入額を国別に見れば次の通り。

国	名			輸入額(単位1000Ltq.)		
イ	タ	リ	ア	6,337		
西	ド	イ	ツ	4,253		
フ	ラ	ン	ス	2,519		
イ	ギ	リ	ス	2,315		
オ	ー	ス	ト	リ	ア	979
カ		ナ		ダ	558	
オ	ラ	ン		ダ	464	
ギ	リ	シ		ヤ	423	
ア	メ	リ		カ	197	
ス		イ		ス	187	
日				本	176	
ベルギー・ルクセンブルク					99	
東	ド	イ	ツ	80		
ス	ペ	イ	ン	39		
ス	ウ	エ	ー	デン	29	
イ	ス	ラ	エ	ル	9	
レ	バ	ノ	ン	9		
デ	ン	マ	ー	ク	7	
アル	ジ	エ	リ	ア	1	
アイ	ル	ラ	ン	ド	1	
計					18,682	

(Börsenblatt 西独版、8月23日号より)

(Börsenblatt 西独版、8月23日号より)

タイム社がリトル・ブラウン社を買収

Time Inc. による Little, Brown & Co. の吸収合併の話は、本年1月に公表されて以来着々と進められて来たが、6月4日にリトル・ブラウン社の株主の承認を得て、全株式の切換えを終り、このほど両社首脳部による正式の調印が行われた。

これによりリトル・ブラウン社は、経営陣は現行のまま、完全にタイム社の系列下に入った。

(Publishers' Weekly, 8月19日号より)

——紀伊国屋書店提供——

— 明治百年洋書まつり —

洋書輸入協会主催

(第一回) 秋季合同特別セール

…良書・全集・バックナンバーを含む出品総合カタログは9月20日に出来…

と き 昭和43年10月11日（金）午前10時～午後7時

12日（土） // //

13日（日）午前10時～午後6時

ところ 東京古書会館

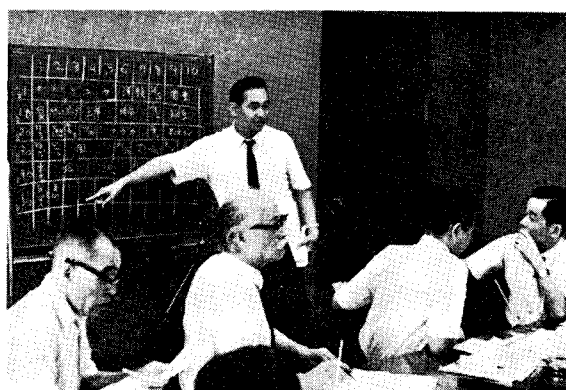
東京都千代田区神田小川町3-22（駿河台下）

- ◎ 東京地区の約30社を超える出品社各位の熱意と協力の中で準備は着々と進んでいます。
- ◎ 会員各位の独自の宣伝をよろしくお願い致します。

〈 担当・洋書交換委員会 〉



服部委員長の挨拶



売台の位置決めはアミダで……

NEWS欄

英国 Thomas Nelson 社の Export Sales Manager Mr. J. Horsburgh 9月上旬来日。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 株 式 会 社

TEL (272) 7211

Longmans English Larousse (Longmans, Green & Co. Ltd.)

¥ 2,700

Pergamon World Atlas (Pergamon Press)

特価 ¥ 17,500

定価 21,600



Oxford Publishing

since 1478

従来よりの輸入業務、宣伝、広告、卸売り、版權の譲渡の他、翻訳、翻刻版、英語教育誌の出版も行っております。シヨールームには新刊を中心に各種出版物を展示して皆様の御利用に供しております。

代理出版社名

FABER AND FABER LTD.

HONG KONG UNIVERSITY PRESS

UNIVERSITY OF MALAYA PRESS

オックスフォード大学出版局株式会社

東京都文京区大塚3丁目3番3号 ☎ (942) 0101~3

昭和43年9月 通巻第17号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 電話 271-6901
関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル 電話 371-5329